

高等学校 令和5年度 (2学年用) 教科 国語 科目 言語文化

教科：国語 科目：言語文化 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 M1組～S組

教科担当者：(M1組：興津 (M2組：興津 (E組：霞田 (A組：興津 (S組：興津

使用教科書：( 数研出版 新編言語文化 )

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言語感覚を磨き、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数	
			話 題	書	読						
1 学 期	A 地域のことば 【知識及び技能】 小説の読み方を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開、表現の仕方、特色を理解できる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・三浦哲郎 『とんかつ』		○	○	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・学習の見通しをもって、登場人物の人物像や心情を読み取ろうとしている。		○	○	○	6
	B 古文の世界を楽しむ 【知識及び技能】 古典を読むために必要なきまりや、表現を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、展開などについて叙述を基的に的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・宇治拾遺物語 『児のそら寝』			○	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に的確に捉えている。 ・学習の見通しをもって、自分の考えを説明しようとしている。		○	○	○	7
	定期考査							○	○		1
	C 「ことば」を吟味する 【知識及び技能】 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 作品や文章に表れているものの方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・三浦しをん 『舟を編む』		○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・作品や文章に表れているものの方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・学習の見通しをもって、積極的に作品内容を解釈し考察しようとしている。		○	○	○	7
	D 現代にも生きる教え 【知識及び技能】 古典を読むために必要なきまりや、表現を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 作品や文章に表れているものの方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・徒然草 『高名の木登り』 『ある人、弓射ることを習ふに』			○	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・作品や文章に表れているものの方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・学習の見通しをもって、作者のものの方や感じ方を読み取ろうとしている。		○	○	○	8
定期考査							○	○		1	
E 詩歌を味わう 【知識及び技能】 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 作品や文章に表れているものの方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・荒木のり子 『六月』 ・中原中也 『サーカス』		○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・作品や文章に表れているものの方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・学習の見通しをもって、作品内容を進んで解釈し話し合いに参加しようとしている。		○	○	○	7	





高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科：数学 科目：数学Ⅱ 単位数：2 単位  
 対象学年組：第2学年 M1組～S組  
 教科担当：(M1組：宮本) (M2組：宮本) (E組：宮本) (A組：宮本) (S組：山田) (組： )  
 使用教科書：(高等学校 数学Ⅱ 数研出版)

教科 数学 の目標：  
**【知識及び技能】** 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。  
**【思考力、判断力、表現力等】** 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。  
**【学びに向かう力、人間性等】** 数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<b>単元 式と計算</b> <b>【知識及び技能】</b> 三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすること。 多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算をすること。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察すること。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> 三次の乗法公式やパスカルの三角形のよさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	<b>・指導項目</b> 3次式の展開と因数分解 パスカルの三角形 多項式の割り算 分数式とその計算 <b>・教材</b> 高等学校 数学Ⅱ（数研出版） REPEAT 数学Ⅱ+B（数研出版） <b>・一人1台端末の活用</b> 教科書の動画コンテンツや課題の提出など	<b>【知識・技能】</b> ○3次式の展開の公式、3次式の因数分解の公式を利用することができる。 ○式の形に着目して変形し、3次式の因数分解の公式を適用する形にすることができる。 ○ $(a+b)^n$ の展開式からパスカルの三角形を導き、パスカルの三角形の性質を理解する。 ○パスカルの三角形を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ○多項式の割り算の計算方法や割り算で成り立つ等式を理解し、利用することができる。 ○2種類以上の文字を含む多項式の割り算を行うことができる。 ○分数式の約分、四則計算ができ、既約分数式または多項式の形にして表現することができる。 ○繁分数式を簡単にすることができる。 <b>【思考・判断・表現】</b> ○数学Ⅰで既習の2次式の展開公式を利用して、3次式の展開公式を導くことができる。 ○多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。 ○2種類以上の文字を含む多項式の割り算を、1つの文字に着目することで、1文字の場合と同様に考えることができる。 ○分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○三次の乗法公式やパスカルの三角形、多項式の割り算、分数式のよさを認識し、考察や問題解決に活用しようとしている。 ○三次の乗法公式やパスカルの三角形、分数式を活用した問題解決において、粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
<b>1学期 単元 複素数と2次方程式の解</b> <b>【知識及び技能】</b> 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすること。 2次方程式の解の種類を判別及び解と係数の関係について理解すること。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用すること。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> 複素数や2次方程式の解と係数の関係のよさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	<b>・指導項目</b> 複素数とその計算 2次方程式の解 解と係数の関係 <b>・教材</b> 高等学校 数学Ⅱ（数研出版） REPEAT 数学Ⅱ+B（数研出版） <b>・一人1台端末の活用</b> 教科書の動画コンテンツや課題の提出など	<b>【知識・技能】</b> ○複素数、複素数の相等の定義を理解し、複素数の四則計算ができる。 ○負の数の平方根を理解し、負の数の平方根を含む式の計算を、 $i$ を用いて処理することができる。 ○2次方程式の解の公式を利用して、2次方程式を解くことができる。 ○判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別することができる。 ○解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 ○対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。 ○2次方程式の解を利用して、2次式を因数分解できる。 ○和と積が与えられた2数を、2次方程式を解くことにより求めることができる。 <b>【思考・判断・表現】</b> ○複素数の表記を理解し、複素数 $a+0i$ を実数 $a$ と同一視できる。 ○複素数の四則計算の結果は複素数であることを理解している。 ○判別式 $D$ の代わりに $D/4$ を用いても解の種類を判別できることを理解し、積極的に用いようとする。 ○与えられた2数を解にもつ2次方程式が1つには定まらないことを理解している。 ○異なる2つの実数 $\alpha, \beta$ が正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。 ○2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○複素数や解と係数の関係のよさを認識し、考察や問題解決に活用しようとしている。 ○複素数や解と係数の関係を活用した問題解決において、粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	11
定期考査			○	○		1

2 学 期	<p>単元 高次方程式</p> <p>【知識及び技能】 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用すること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 剰余の定理や因数定理のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。</p>	<p>・指導項目 剰余の定理 因数定理 組み立て除法 高次方程式</p> <p>・教材 高等学校 数学Ⅱ（数研出版） REPEAT 数学Ⅱ+B（数研出版）</p> <p>・一人1 台端末の活用 教科書の動画コンテンツや課題の提出など</p>	<p>【知識・技能】 ○剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 ○<math>P(x)=0</math> である <math>x</math> の値の見つけ方を理解し、高次方程式を因数分解できる。 ○因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 ○高次方程式の2重解、3重解の意味を理解している。 ○高次方程式の虚数解から、方程式の係数を決定することができる。 ○高次方程式が虚数解 <math>a+bi</math> を解にもつと、<math>a-bi</math> を解にもつことを利用できる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○多項式を1次式で割ったときの余りについて、剰余の定理で考察することができる。 ○多項式 <math>P(x)</math> が <math>x-k</math> で割り切れることを式で表現することができる。 ○高次方程式を1次方程式や2次方程式に帰着させることができる。 ○高次方程式が解 <math>a</math> をもつことを、式を用いて表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○剰余の定理や因数定理のよさを認識し、考察や問題解決に活用しようとしている。 ○剰余の定理や因数定理を活用した問題解決において、粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</p>	○	○	○	6
	<p>単元 点と直線①</p> <p>【知識及び技能】 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表すこと。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察すること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 内分点・外分点や2点間の距離の求め方のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。</p>	<p>・指導項目 直線上の点 平面上の点</p> <p>・教材 高等学校 数学Ⅱ（数研出版） REPEAT 数学Ⅱ+B（数研出版）</p> <p>・一人1 台端末の活用 教科書の動画コンテンツや課題の提出など</p>	<p>【知識・技能】 ○数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ○線分の外分点の公式を適用する際に、分母を正にして計算しようとする。 ○座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ○座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ○三角形の重心の座標の公式を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○線分の内分点、外分点の公式を統一して捉えようとする。 ○図形の性質を証明する際に、計算が簡単になるように座標軸を適切に設定できる。 ○点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○内分点・外分点の求め方や2点間の距離の考え方のよさを認識し、考察や問題解決に活用しようとしている。 ○内分点・外分点の求め方や2点間の距離の考え方を活用した問題解決において、粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</p>	○	○	○	6
	<p>定期考査</p>			○	○		1
	<p>単元 点と直線②、円</p> <p>【知識及び技能】 座標平面上の直線や円を方程式で表すこと。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察すること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 直線の方程式、円の方程式について、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。</p>	<p>・指導項目 直線の方程式 2直線の関係 円の方程式 円と直線</p> <p>・教材 高等学校 数学Ⅱ（数研出版） REPEAT 数学Ⅱ+B（数研出版）</p> <p>・一人1 台端末の活用 教科書の動画コンテンツや課題の提出など</p>	<p>【知識・技能】 ○与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ○2直線の平行・垂直条件を理解して、それを利用できる。 ○点と直線の距離の公式を理解して、それを利用することができる。 ○<math>kx+ly+G(x,y)=0</math> の形を利用して、直線の方程式を求めることができる。 ○与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ○<math>x, y</math> の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べるることができる。 ○3点を通る円の方程式を求めることができる。 ○円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ○円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。 ○円の接線の公式を理解して、それを利用できる。 ○円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○直線が <math>x, y</math> の1次方程式で表されることを理解している。 ○図形的条件（線対称など）を式で表現できる。 ○直線に関して対称な点の座標を求めることができる。 ○円の方程式が <math>x, y</math> の2次方程式で表されることを理解している。 ○3点を通る円はこの3点を頂点とする三角形の外接円であることを理解している。 ○円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。 ○円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○直線の方程式、円の方程式を認識し、考察や問題解決に活用しようとしている。 ○直線の方程式や円の方程式を活用した問題解決において、粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、</p>	○	○	○	8
	<p>定期考査</p>			○	○		1
	<p>単元 軌跡と領域</p> <p>【知識及び技能】 軌跡について理解し、簡単な場合に於いて軌跡を求めること。簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 数量と図形との関係などに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 軌跡や領域について、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。</p>	<p>・指導項目 軌跡と方程式 不等式の表す領域</p> <p>・教材 高等学校 数学Ⅱ（数研出版） REPEAT 数学Ⅱ+B（数研出版）</p> <p>・一人1 台端末の活用 教科書の動画コンテンツや課題の提出など</p>	<p>【知識・技能】 ○点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。 ○軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ○媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 ○不等式の表す領域を図示することができる。 ○連立不等式の表す領域を図示することができる。 ○領域を利用して1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。 ○領域を利用して、命題を証明することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 ○軌跡を求める際には、逆についても調べる必要があることを理解している。 ○不等式の満たす解を、座標平面上の点の集合としてみることができる。 ○条件の真理集合を考えることにより、命題の真偽を真理集合の包含関係として考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○軌跡と領域のよさを認識し、考察や問題解決に活用しようとしている。 ○軌跡と領域を活用した問題解決において、粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</p>	○	○	○	13
	<p>定期考査</p>			○	○		1
	<p>余裕があれば、三角関数や指数関数の導入などを行う。</p>						合計 57





年間授業計画 新様式

教科:理科 科目:科学と人間生活 単位数:2単位

対象学年組:1学年 1～5組

教科担当者:(1組 機械科:林元)(2組 機械科:林元)(3組 電気科:林元)(4組 建築科:二井内吉信)(5組 設備工業科:二井内吉信)

使用教科書:科学と人間生活/東京書籍

学習内容	指導目標	配当時間	評価の観点	評価の内容	評価の方法
1編 生命の科学					
第1章 ヒトの生命現象					
①遺伝情報とDNA ②生命活動を支えるタンパク質	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝子の本体であるDNAの構造について理解させる。</li> <li>タンパク質がヒトの生命現象に関与していることを理解させる。</li> <li>遺伝子の情報をもとにタンパク質がつくられることを理解させる。</li> </ul>	4	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAとタンパク質の構造について理解する。</li> <li>DNAの塩基配列の情報からタンパク質のアミノ酸配列が決定されることを理解する。</li> <li>血糖濃度がすい臓からのホルモンによって調節されるしくみを理解する。</li> <li>糖尿病とインスリンとの関係について理解する。</li> <li>抗体による免疫のしくみについて理解する。</li> <li>アレルギーと予防接種について理解する。</li> <li>眼の構造について理解する。</li> <li>視覚が発生するしくみを理解する。</li> <li>体内時計が先の刺激によって調節され、ヒトの行動に関与することを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Q」について、答えさせる。</li> <li>「やってみよう」①～⑦に取り組みさせる。</li> <li>「観察と実験」①～③に取り組みさせる。</li> <li>章末問題「まとめと演習」に取り組みさせる。</li> <li>「チェック」について、簡単な説明をさせる。</li> </ul>
③血糖濃度とホルモン ④血糖濃度の調節と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事や運動などの活動によって、血糖濃度は一時的に変動するが、ホルモンにより調節されて一定の範囲内に保たれていることを理解させる。</li> <li>すい臓から分泌されるホルモンの作用により、血糖濃度が調節されるしくみを理解させる。</li> <li>インスリンの分泌不足などにより糖尿病が発症されること</li> </ul>	3	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAを抽出実験を通して、DNAの構造について考察できる(「観察と実験①」)。</li> <li>DNAとタンパク質についての学習を通して、生命の設計図としてのDNAの役割を説明できる。</li> <li>糖尿病とホルモンの関係を理解し、糖尿病に対する治療法や予防法について考察できる。</li> <li>抗体による免疫のしくみについての学習を通して、アレルギーや予防接種について説明できる。</li> <li>盲斑の実験を通して、眼の構造について説明できる(「観察と実験②」)。</li> <li>鏡視の体験を通して、視覚の発生について考察できる(「観察と実験③」)。</li> <li>体内時計についての学習を通して、規則的な生活の重要性を説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やってみよう」①～⑦について振り返り、学習内容を踏まえてグループでの話し合いをさせる。</li> <li>「観察と実験」①～③の結果について考察させ、レポートの作成、発表、グループ討論などに取り組みさせる。</li> <li>「未来をひらくサイエンス」について、グループで話し合いをさせる。</li> </ul>
⑤免疫とからだの防御 ⑥免疫と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒトのからだには、病原体を排除する免疫が働いていることを理解させる。</li> <li>抗体による生体防御の概要を理解させる。</li> <li>免疫のはたらきに異常が生じることによって、アレルギーが発症することを理解させる。</li> <li>ワクチンによる予防接種のしくみについて理解させる。</li> </ul>	4	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒトの生命現象についての学習内容を、日常生活や健康管理に結びつけ、意欲的に理解しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容をまとめたノートを提出させる。</li> <li>「コラム」「将来×サイエンス」「ニュースペーパー」などに積極的に取り組んでいるかを観察する。</li> </ul>
⑦眼の構造とはたらき ⑧光の情報と生命活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒトの眼の基本的な構造を理解させる。</li> <li>眼で受容した光の情報が脳に伝えられて視覚が生じることを実験を通して理解させる。</li> <li>体内時計が先の刺激によって調節され、睡眠などのヒトの行動に関わっていることを理解させる。</li> </ul>	4			
第2章 微生物とその利用					
①身のまわりの微生物 ②微生物とその発見の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>私たちの身のまわりには無数の微生物が存在することを実験を通して理解させる。</li> <li>微生物には特徴の異なるさまざまな生物が含まれることを理解させる。</li> <li>目に見えない微生物の存在を認識するに至った科学史を学習させる。</li> </ul>	4	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>微生物の生息場所や種類について理解する。</li> <li>微生物に関わる一連の科学史を理解する。</li> <li>発酵および発酵食品について理解する。</li> <li>乳酸発酵およびアルコール発酵について理解する。</li> <li>ワクチンや抗生物質などの医薬品の製造に微生物が関わっていることを理解する。</li> <li>炭素循環と窒素循環に微生物が関わっていることを理解する。</li> <li>汚水や環境の浄化に微生物が利用されていることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Q」について、答えさせる。</li> <li>「やってみよう」①～⑤に取り組みさせる。</li> <li>「観察と実験」①～⑤に取り組みさせる。</li> <li>章末問題「まとめと演習」に取り組みさせる。</li> <li>「チェック」について、簡単な説明をさせる。</li> </ul>
③発酵食品への微生物の利用 ④乳酸発酵とアルコール発酵 ⑤医薬品への微生物の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>発酵食品の生産には微生物が利用されることを、食品中の微生物の観察を通して理解させる。</li> <li>乳酸発酵とアルコール発酵が起こる際の反応を理解させるとともに、それぞれを利用してつくられる発酵食品について学習させる。</li> <li>ワクチンや抗生物質などがどのような物質であるのかを理解させるとともに、それらの医薬品の生産に微生物が利用されていることを理解させる。</li> </ul>	6	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>微生物を培養する実験から、微生物が生息する場所について考察できる(「観察と実験①」)。</li> <li>微生物の科学史についての学習を通して、目に見えない微生物を調べる方法について考察できる。</li> <li>発酵食品に含まれる微生物の観察を通して、発酵食品と微生物との関わりについて考察できる(「観察と実験②」)。</li> <li>アルコール発酵の実験を通して、アルコール発酵の反応について説明できる(「観察と実験③」)。</li> <li>土壌中の微生物を確認する実験を通して、生態系における微生物の役割を説明できる(「観察と実験④」)。</li> <li>活性汚泥の観察を通して、下水処理のしくみについて説明できる(「観察と実験⑤」)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やってみよう」①～⑤について振り返り、学習内容を踏まえてグループでの話し合いをさせる。</li> <li>「活用」(p.91)に取り組みさせる。</li> <li>「観察と実験」①～⑤の結果について考察させ、レポートの作成、発表、グループ討論などに取り組みさせる。</li> <li>「未来をひらくサイエンス」について、グループで話し合いをさせる。</li> </ul>
⑥生態系における微生物 ⑦環境の浄化と微生物	<ul style="list-style-type: none"> <li>分解者としての微生物のはたらきを理解させる。</li> <li>炭素や窒素の循環の概要とそれに関わる微生物の役割を理解させる。</li> <li>微生物による分解によって自然浄化が行われていることや、微生物の分解能力を利用した浄化が試されていることを学習させる。</li> </ul>	5	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>微生物が人間の生活のさまざまな場面に役立っていることを意欲的に理解しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容をまとめたノートを提出させる。</li> <li>「コラム」「将来×サイエンス」「ニュースペーパー」などに積極的に取り組んでいるかを観察する。</li> </ul>

第2編 物質の科学					
第1章 材料とその再利用					
①金属と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の生活では多くの金属が産地たちの生活を支えていることを理解させる。</li> <li>金属に共通する性質を理解させる。</li> <li>金属結合する自由電子により、金属が特有の性質を示すことを理解させる。</li> </ul>	2	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な金属の性質と構造について理解する。</li> <li>鉄、銅、アルミニウムの性質と用途に関連付け理解する。</li> <li>鉄、銅、アルミニウムの製錬の方法について理解する。</li> <li>金属の腐食(さび)のしくみと、その防止について理解する。</li> <li>一般的なプラスチックの性質を理解する。</li> <li>プラスチックが、単量体が重合してできる高分子化合物であることを理解する。</li> <li>プラスチックの化学構造について理解し、燃焼により生じる物質について理解する。</li> <li>身のまわりのプラスチックの利用例について理解する。</li> <li>3Rの考え方について理解する。</li> <li>ガラス、金属、プラスチックの再利用の方法について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Q」について、答えさせる。</li> <li>「やってみよう」①～⑥に取り組ませる。</li> <li>「観察&amp;実験」①～②に取り組ませる。</li> <li>「章末問題「まとめと演習」」に取り組ませる。</li> <li>「チェック」について、簡単な説明をさせる。</li> </ul>
②身のまわりの金属と精錬 ③金属のさびとその防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な鉄・銅・アルミニウムを例に、それぞれの性質と利用例について理解させる。</li> <li>鉄・銅・アルミニウムの製錬の方法を理解させる。</li> <li>金属の腐食(さび)について理解させ、それを防ぐ方法をあわせて理解させる。</li> </ul>	5	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属が性質を示すしくみや金属結合による構造について、自由電子と関連させて説明できる。</li> <li>鉄・銅・アルミニウムの用途について、各金属の性質と関連させて説明できる。</li> <li>鉄、銅、アルミニウムの製錬の方法について、順を追って説明できる。</li> <li>「観察&amp;実験①」を通し、金属の酸化物から金属の単体を取り出す方法について考察できる。</li> <li>金属がさびるしくみについて、金属のイオンになりやすさと関連して考察できる。</li> <li>プラスチックの用途について、プラスチックの性質と関連させて説明できる。</li> <li>「観察&amp;実験②」を通し、プラスチックと金属の性質を比較して考察できる。</li> <li>資源の有効活用について、現状の問題点を理解し、自分たちにできることを考察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やってみよう」①～⑥について振り返り、学習内容を踏まえてグループでの話し合いをさせる。</li> <li>「観察&amp;実験」①～②の結果について考察させ、レポートの作成、発表、グループ討論などに取り組ませる。</li> <li>「未来をひらくサイエンス」について、グループで話し合いをさせる。</li> </ul>
④プラスチックとその性質 ⑤プラスチックの成りたち ⑥さまざまなプラスチック	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチックの利用例と、一般的な性質を理解させる。</li> <li>プラスチックの熱に対する性質を理解させる。</li> <li>プラスチックのような高分子化合物が単量体の重合によってつくられることを理解させる。</li> <li>プラスチックの構成元素を理解させ、燃焼によって生じる物質について理解させる。</li> <li>身のまわりに多く使われているプラスチックの種類について理解させる。</li> <li>近年開発が進められている優れた機能をもつプラスチックについて理解させる。</li> </ul>	6	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料とその再利用について学習した内容を、日常生活における身近な製品や環境問題などと結びつけ、意図的に理解しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容をまとめたノートを提出させる。</li> <li>「コラム」「将来×サイエンス」「ニュースペーパー」などに積極的に取り組んでいるかを観察する。</li> </ul>
⑦資源の再利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な社会を目指すために、資源の有効活用に向けた3Rなどの考え方を理解させる。</li> <li>ガラス・金属・プラスチックの再利用について理解させる。</li> </ul>	2			
第2章 衣料と食品					
①衣料と繊維 ②天然繊維	<ul style="list-style-type: none"> <li>繊維が衣料の材料として用いられる素材であることを理解させる。</li> <li>原料や成りたちによって分けられる繊維の分類について理解させる。</li> <li>植物繊維の種類や特徴、利用例について理解させる。</li> <li>動物繊維の種類や特徴、利用例について理解させる。</li> </ul>	4	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>繊維の分類について理解する。</li> <li>植物繊維の種類と特徴について理解する。</li> <li>動物繊維の種類と特徴について理解する。</li> <li>合成繊維の種類と特徴について理解する。</li> <li>再生繊維・半合成繊維の製法や種類、特徴について理解する。</li> <li>優れた性能をもつ繊維の例について理解する。</li> <li>栄養素の種類について理解する。</li> <li>デンプン・タンパク質・油脂について、消化と吸収のしくみを理解する。</li> <li>炭水化物の種類について理解する。</li> <li>タンパク質がアミノ酸から構成されることを理解する。</li> <li>タンパク質の性質と検出反応について理解する。</li> <li>油脂の構造や消化される様子について理解する。</li> <li>無機質とビタミンについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Q」について、答えさせる。</li> <li>「やってみよう」①～⑦に取り組ませる。</li> <li>「観察&amp;実験」①～⑥に取り組ませる。</li> <li>「章末問題「まとめと演習」」に取り組ませる。</li> <li>「チェック」について、簡単な説明をさせる。</li> </ul>
③化学繊維(1) ④化学繊維(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>合成繊維の種類や特徴、利用例について理解させる。</li> <li>再生繊維・半合成繊維について、その製法や種類、特徴、利用例について理解させる。</li> <li>これまでに学習した繊維のほか、優れた性能をもつ繊維について理解させる。</li> </ul>	4	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>「観察&amp;実験①」を通し、繊維の燃えるようすから繊維の特徴を考察できる。</li> <li>植物繊維の用途について、その特徴と関連付けて説明できる。</li> <li>動物繊維の用途について、その特徴と関連付けて説明できる。</li> <li>合成繊維の用途について、その特徴と関連付けて説明できる。</li> <li>「観察&amp;実験②」を通し、合成繊維の製法について考察できる。</li> <li>再生繊維・半合成繊維の用途について、その特徴と関連付けて説明できる。</li> <li>「観察&amp;実験③」を通し、繊維の吸湿性からそれぞれの用途との関連性を考察できる。</li> <li>栄養素の消化と吸収について、それぞれに作用する消化酵素をあわせて説明できる。</li> <li>「観察&amp;実験④」を通し、デンプンの消化されるようすとその条件、消化による生成物について考察できる。</li> <li>タンパク質を検出する反応について、その方法と反応のようすについて説明できる。</li> <li>「観察&amp;実験⑤」を通し、タンパク質の性質について考察できる。</li> <li>「観察&amp;実験⑥」を通し、油脂を抽出する方法と、食品に含まれる油脂の量について考察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やってみよう」①～⑦について振り返り、学習内容を踏まえてグループでの話し合いをさせる。</li> <li>「観察&amp;実験」①～⑥の結果について考察させ、レポートの作成、発表、グループ討論などに取り組ませる。</li> <li>「未来をひらくサイエンス」について、グループで話し合いをさせる。</li> </ul>
⑤食品と栄養素 ⑥炭水化物	<ul style="list-style-type: none"> <li>私たちが食品から取りこむ栄養素の種類について理解させる。</li> <li>デンプン・タンパク質・油脂について、消化と吸収のしくみを理解させる。</li> <li>炭水化物には単糖・二糖・多糖があることを理解させる。</li> <li>デンプンが消化されるようすについて理解させる。</li> </ul>	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>衣料と食品について学習した内容を、日常生活における身近な衣料や食品と結びつけ、意図的に理解しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容をまとめたノートを提出させる。</li> <li>「コラム」「将来×サイエンス」「ニュースペーパー」などに積極的に取り組んでいるかを観察する。</li> </ul>
⑦タンパク質 ⑧脂質とその他の栄養素	<ul style="list-style-type: none"> <li>タンパク質がアミノ酸から構成されることを理解させる。</li> <li>タンパク質の性質と、タンパク質を検出する反応について理解させる。</li> <li>脂質について、油脂を例として取り上げ、構造や消化されるようすについて理解させる。</li> <li>無機質とビタミンについて理解させる。</li> </ul>	4	主体的に学習に取り組む態度		

第3編 光や熱の科学				
第1章 光の性質とその利用				
①光の色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白色光はあらゆる色の光が混ざったものであることを理解させる。</li> <li>・光の3原色の組合せでさまざまな色の光をつくり出せることを、実験を通して理解させる。</li> <li>・光の色と波長の関係を理解させる。</li> <li>・人間の目で感知することができる可視光線だけでなく、人間の目には見えない光(紫外線や赤外線)があることについても触れる。</li> </ul>	2	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Q」について、答えさせる。</li> <li>・「やってみよう」①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿に取組ませる。</li> <li>・「観察&amp;実験」①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿に取組ませる。</li> <li>・「チェック」について、簡単な説明をさせる。</li> </ul>
②光の直進と反射 ③光の屈折と全反射	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な光の進み方(光の直進性、光の速さ)について理解させる。</li> <li>・反射した光の進み方について理解させる。</li> <li>・自然光と偏光の違いについて理解させる。</li> <li>・屈折した光の進み方について理解させる。また、屈折率について実験を通して理解させる。</li> <li>・全反射はどのような現象か理解させる。</li> </ul>	5	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「観察&amp;実験①」を通して、光の3原色から白色の光をつくり出すにはどうすればよいか説明できる。</li> <li>・「観察&amp;実験②」を通して、お互いの凹面と凸面それぞれのように光が反射しているか考察できる。</li> <li>・光の屈折について学習したことから、お金の底にコインを置いて水を注ぐことでコインの見え方が変わる理由を説明できる。</li> <li>・屈折率について学習したことを利用して、ガラスの屈折率を測定することができる(「観察&amp;実験③」)。</li> <li>・さまざまな光源からの光のスペクトルを観察し、それぞれの特徴をまとめることができる(「観察&amp;実験④」)。</li> <li>・光の散乱について学習したことから、昼間の空が青く、夕焼けが赤く見える理由を説明できる。</li> <li>・光の干渉について学習したことから、しゃぼん玉が虹色に見える理由を説明できる。</li> <li>・電磁波の性質について学習したことから、山かげで受信しやすいのは、AM放送とFM放送のどちらか考察できる。</li> </ul>
④光の分散と散乱 ⑤光の回折と干渉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光の分散はどのような現象か理解させる。</li> <li>・光源による光のスペクトルの違いについて実験を通して理解させる。</li> <li>・光の散乱はどのような現象か理解させる。</li> <li>・波の回折・干渉とはどのような現象か理解させるとともに、光も回折・干渉することを理解させる。しゃぼん玉が虹色に見える理由にも触れ、光の干渉について理解を深めさせる。</li> </ul>	5	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光の性質とその利用についての学習内容を、日常生活や身近な現象に結びつけ、意欲的に理解しようとしている。</li> </ul>
⑥電磁波 ⑦電磁波の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光は電磁波の一種であることを理解させる。</li> <li>・電磁波の種類について理解させる。</li> <li>・電磁波は波であり、反射・屈折・回折・干渉などの性質を示すことを理解させる。</li> <li>・電波、赤外線、紫外線、X線やγ線といった電磁波は、それぞれどのように利用されているか学習させる。赤外線や紫外線の性質については、実験を通して理解を深めさせる。</li> </ul>	3		
第2章 熱の性質とその利用				
①温度と熱運動 ②熱容量・比熱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温度は何を表すものなのか理解させる。また、物体をつくる粒子が熱運動をしていることを、実験を通して理解させる。</li> <li>・セルシウス温度と絶対温度について理解させる。</li> <li>・熱平衡とはどのような状態か理解させる。</li> <li>・熱容量と比熱について理解させる。また、熱量の保存についても学習させ、実験を通してこれらについて理解を深めさせる。</li> </ul>	5	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Q」について、答えさせる。</li> <li>・「やってみよう」①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿に取組ませる。</li> <li>・「観察&amp;実験」①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿に取組ませる。</li> <li>・「チェック」について、簡単な説明をさせる。</li> </ul>
③熱の伝わり方 ④仕事や電流と熱の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱伝導、対流、熱放射では、それぞれどのように熱が伝わるのか理解させる。</li> <li>・物質の三態、融解熱・蒸発熱について、物質をつくる粒子に着目して理解させる。</li> <li>・仕事による熱の発生について、実験を通して理解させる。ジュールの実験にも触れ、仕事と熱量が比例関係にあることを学習させる。</li> <li>・電流の仕事により熱が発生すること、その発熱量はジュールの法則に従うことを理解させる。</li> <li>・電力量と電力の定義について学習させる。</li> </ul>	4	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱運動について学習したことから、絵の具の微粒子の運動(ブラウン運動)が起こる理由を説明できる(「観察&amp;実験①」)。</li> <li>・熱平衡、比熱、熱量の保存について学習したことを利用して、物質の比熱を測定することができる(「観察&amp;実験②」)。</li> <li>・熱伝導、対流、熱放射について、それぞれのよう熱が伝わるか説明できる。</li> <li>・仕事と熱の発生について学習したことから、圧縮発熱器で紙片が燃える理由を説明できる(「観察&amp;実験③」)。</li> <li>・ジュール熱について学習したことから、電流を流すことで熱が発生する理由を説明できる。</li> <li>・図17(p.147)で、エネルギーの変換の例をあげることができる。</li> <li>・「観察&amp;実験④」を通して、エネルギーがどのように変換されているか説明できる。</li> <li>・この章で学習したことや「未来をひらくサイエンス」をふまえ、エネルギーを効率的に利用することの重要性を説明できる。</li> </ul>
⑤エネルギーの移り変わり ⑥熱エネルギーの利用 ⑦エネルギー資源の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーには、いろいろな種類があることを学習させる。また、エネルギーは相互に変換されることを実験を通して理解させる。</li> <li>・熱機関について、実験を通して理解させる。また、熱効率についても学習させ、得た熱量のすべてを仕事に変えることはできないことを理解させる。</li> <li>・可変変化と不可変変化は、それぞれどのような変化か理解させる。</li> <li>・さまざまな発電方法でどのように電力を生み出しているか理解させる。</li> <li>・複合サイクル方式やコーージェネレーションシステムなど、エネルギーを効率的に利用する技術があることを学習させる。</li> </ul>	6	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱の性質とその利用についての学習内容を、日常生活や身近な現象に結びつけ、意欲的に理解しようとしているかを観察する。</li> <li>・学習内容をまとめたノートを提出させる。</li> <li>・「コラム」「将来×サイエンス」「ニュースペーパー」などに積極的に取り組んでいるかを観察する。</li> </ul>

第4編 地球や宇宙の科学					
第1章 太陽と地球					
①日本の四季と気象災害(1) ②日本の四季と気象災害(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本列島周辺の高気圧分布や季節風の季節ごとの変化と四季の気候の特徴を理解させる。</li> <li>冬に、日本海側では降雪、太平洋側では晴天となりやすい理由を理解させる。</li> <li>集中豪雨や台風によって引き起こされる災害について理解させる。</li> </ul>	4	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本周辺の気圧配置や季節風について理解する。</li> <li>日本列島の冬の典型的な降雪のしくみについて理解する。</li> <li>集中豪雨や台風によって起こる災害について理解する。</li> <li>地球規模の大気の流れと、それが日本の気候に与える影響について理解する。</li> <li>太陽放射エネルギーの収支、緯度帯ごとの特徴を理解する。</li> <li>温室効果のしくみや温室効果ガスの種類を理解する。</li> <li>太陽の天体としての特徴を理解する。</li> <li>太陽光エネルギーの利用について理解する。</li> <li>天体の運動の周期性、四季の変化や時間の単位について理解する。</li> <li>大潮や満潮が約1日に2回起こる理由を理解する。</li> <li>大潮、小潮のしくみについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Q」について、答えさせる。</li> <li>「やってみよう」①～⑤に取り組みさせる。</li> <li>「観察＆実験①」～⑤に取り組みさせる。</li> <li>「チェック」について、簡単な説明をさせる。</li> </ul>
③大気の大循環 ④地球を出入りするエネルギー ⑤太陽の構造と太陽放射	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本周辺の気圧配置に影響を及ぼす、地球規模で吹く風について理解させる。</li> <li>大気の大循環のしくみは、地球を出入りする太陽放射エネルギーによって引き起こされることを理解させる。</li> <li>温室効果のしくみについて理解させる。</li> <li>地球に届く太陽放射エネルギーの量や特徴について理解させる。</li> <li>エネルギー源である太陽の、天体としての特徴を理解させる。</li> <li>太陽光が生活の中で利用されていることを理解させる。</li> </ul>	6	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本周辺の気圧配置の季節変化と、気候の特徴との関係の説明ができる。</li> <li>台風モデルの観察を通して、台風が通過する際の風向の変化を考察できる(「観察＆実験①」)。</li> <li>集中豪雨や台風によって起こる災害から身を守る方法について考察できる。</li> <li>大気の大循環が台風の進路や日本の天気にも与える影響について説明できる。</li> <li>太陽光パネルの発電量を調べる実験を通して、地球が受け取る太陽放射エネルギーが、緯度によって異なる理由を説明できる(「観察＆実験②」)。</li> <li>各緯度帯によって、大気はどのように運動しているか説明できる。</li> <li>温室効果のしくみから、地球温暖化問題について考察できる。</li> <li>太陽放射エネルギーを利用した実験を通して、太陽放射エネルギーの活用について考察できる(「観察＆実験③」)。</li> <li>観察＆実験④を通して、地球の運動周期について考察できる。</li> <li>観察＆実験⑤を通して、満潮について考察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やってみよう」①～⑤について振り返り、学習内容を踏まえてグループでの話し合いをさせる。</li> <li>「活用」(p.170)に取り組みさせる。</li> <li>「観察＆実験①」～⑤の結果について考察させ、レポートの作成、発表、グループ討論などに取り組みさせる。</li> <li>「未来をひらくサイエンス」について、グループで話し合いをさせる。</li> </ul>
⑥天体の運動 ⑦天体の運動と海洋	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節が変化する理由を、天体の運動という観点から理解させる。</li> <li>天体の運動の周期性と、生活の中で使用されている時間の単位との関係について理解させる。</li> <li>高潮と干潮の周期性に気付かせる。</li> <li>観測力のしくみを理解させる。</li> <li>大潮の時期に、高潮災害の危険性が高まる理由について理解させる。</li> </ul>	5	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>気象現象に興味をもち、日本に四季の変化がある理由や、季節によって起こりやすい気象災害、天体と海洋の運動について、日本周辺の気圧配置や天体の運動と関連づけて、意欲的に理解しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容をまとめたノートを提出させる。</li> <li>「コラム」「将来×サイエンス」「ニュースペーパー」などに積極的に取り組んでいるかを観察する。</li> <li>グループワークで積極的に発言しているかを観察する。</li> </ul>
第2章 自然景観と自然災害					
①日本列島とプレート	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の内部構造について理解し、地球表面を動くプレートによって、地形の起伏がつけられていることを理解させる。</li> <li>日本周辺のプレート分布について理解させる。</li> <li>活断層の活動によって地形が変化することを理解させる。</li> </ul>	2	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の内部構造について理解している。</li> <li>地震発生のしくみを理解する。</li> <li>地震によって発生する災害について理解する。</li> <li>マグマの性質と、火山の形の関係について理解する。</li> <li>火山がもたらす恵みと、火山活動による災害について理解する。</li> <li>風上と流るる水のはたらきによって、山が低くなることを理解する。</li> <li>侵食、運搬、堆積のはたらきと、形成される地形について理解する。</li> <li>平野の地形と、土砂災害の関係について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Q」について、答えさせる。</li> <li>「やってみよう」①～⑤に取り組みさせる。</li> <li>「観察＆実験①」～⑤に取り組みさせる。</li> <li>「チェック」について、簡単な説明をさせる。</li> </ul>
②地震のしくみと地震活動 ③地震による災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震発生のしくみを理解させる。</li> <li>マグニチュードと震度の違いを理解させる。</li> <li>日本列島はプレート境界に位置し、特にプレート境界に沿って多くの地震が発生することを理解させる。</li> <li>地震によって発生する災害やその危険性について理解させる。</li> </ul>	4	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>地層圧縮のモデル実験を通して、断層の形成と地形の変化の関係について説明できる(「観察＆実験①」)。</li> <li>日本列島のプレート分布と、地震の発生について関連づけて説明できる。</li> <li>マグニチュードと震度の違いを説明できる。</li> <li>過去の地震災害の情報を、地形や地層の特徴から、今後の地震災害の危険性について考察できる。</li> <li>火山噴出物の観察を通して、そのでき方を説明できる(「観察＆実験②」)。</li> <li>火山のハザードマップを読み取り、周辺地域の災害の危険性について考察できる(「観察＆実験③」)。</li> <li>地形の成因と、土砂災害との関係について理解し、今後の災害の危険性について考察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やってみよう」①～⑥について振り返り、学習内容を踏まえてグループでの話し合いをさせる。</li> <li>「観察＆実験①」～⑤の結果について考察させ、レポートの作成、発表、グループ討論などに取り組みさせる。</li> <li>「未来をひらくサイエンス」について、グループで話し合いをさせる。</li> </ul>
④マグマがつくる火山と景観 ⑤火山がもたらす恵みと災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>火山噴火のしくみについて理解させる。</li> <li>火山噴出物の名称と特徴を理解させる。</li> <li>マグマの性質と噴出量によって、火山の大きさや形が変化することを理解させる。</li> <li>火山は災害を引き起こすだけでなく、温泉や鉱物資源など私たちの生活に恵みをもたらしていることを理解させる。</li> <li>火山活動によって引き起こされる災害について理解させる。</li> <li>ハザードマップを読み取り方を理解させる。</li> </ul>	5	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本列島周辺のプレート分布と、地震や火山の活動について関連付けて意欲的に理解しようとしている。</li> <li>地震災害、火山災害、土砂災害のしくみを理解し、地形と災害の危険性について積極的に考察しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容をまとめたノートを提出させる。</li> <li>「コラム」「将来×サイエンス」「ニュースペーパー」などに積極的に取り組んでいるかを観察する。</li> </ul>
⑥水のはたらきと自然景観 ⑦土砂災害と洪水	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレートの運動によって高くなった山は、流れる水のはたらきによって低くなることを理解させる。</li> <li>風化、侵食、運搬の3作用を理解させる。それらの作用によって、山地、河川沿い、平野ではそれぞれ特徴的な地形が形成されることを理解させる。</li> <li>土砂災害の種類と危険性の高い地形との関係について理解させる。</li> </ul>	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>「Q」について、答えさせる。</li> </ul>	
第5編 課題研究					
課題研究の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然や生活の中から疑問を発見させ、そのテーマについて調べていく方法を学ばせる。</li> <li>調べたこととまとめ、発表する技術と方法について学習させ、自分の考えを相手に互に効果的に伝えることの大切さを理解させる。</li> </ul>	5			

高等学校 令和5年度（2学年用）

教科

理科

科目

化学基礎

教科： 理科

科目： 化学基礎

単位数： 3単位

対象学年組： 2学年 1～5組

教科担当者：（1組：上田 遥葵）

（2組：上田 遥葵）

（3組：上田 遥葵）

（4組：上田 遥葵）

（5組：上田 遥葵）

使用教科書： 化基710 新編化学基礎（数研出版）

評価の観点	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物質と その変化についての基本的な概念や原理・法則 などを理解しているとともに、科学的に探究す るために必要な観察、実験などに関する基本操 作や記録などの技能を身に付けている	物質とその変化から問題を見出し 見直しをもって観察、実験などを 行い、得られた結果を分析して解 釈し、表現するなど、科学的に探 究している。	物質とその変化や現象に主体的に関わり 見直しをもったり振り返ったりするなど 科学的に探究しようとしている。

学期	学習内容	指導目標(学習のねらい)	配当時間	評価の観点	評価の内容	評価の方法
1	第1編 物質の構成と化学結合					
	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 1 混合物と純物質	物質が純物質と混合物とに分類されることを理解する。あわせて、混合物から純物質を得る分離・精製には種々の方法があることを理解し、実験を通してその操作法を体得する。	3	知識・技能	・混合物を分離する操作として、ろ過、蒸留、分留、昇華法、再結晶、抽出、クロマトグラフィーなどの方法をあげることができる。 ・実際にそれらの方法を適切に用いて混合物を分離することができる。	・教科書の以下の内容に取り組ませる。 ・p.23 問2 ・p.24 実験2 混合物から純物質を分離する ・p.35 章末問題2, 3 ・p.177 実験15 しょうゆから食塩を取り出す
	2 物質とその成分	物質が種々の元素から成りたっていることや、元素が元素記号で表されることを理解する。構成する元素の種類によって物質が単体や化合物に分けられ、さらに単体には性質が異なる同素体があることも理解する。あわせて、成分元素の検出方法も学ぶ。	3	思考・判断・表現	・いろいろな物質を単体と化合物に分類することができる。 ・単体と化合物の違いについて説明することができる。 ・同素体とは何かを説明できる。	・教科書の以下の内容に取り組ませる。 ・p.27 問5 ・p.30 学んだことを説明してみよう ・p.35 章末問題1
	3 物質の三態と熱運動	物質に固体・液体・気体の3つの状態があることを確認し、それぞれの状態で分子の熱運動のようすが異なっていることを理解する。あわせて、相互の変化には熱の出入りが伴うことを理解する。	3	主体的に学習に取り組む態度	・日常生活の中での物質の状態変化について興味をもつ。	・教科書の以下の内容に取り組ませる。 ・p.31 問7
	第2章 物質の構成粒子 1 原子とその構造	原子の構造を理解し、その構成粒子の違いにより同位体が存在することを理解する。 原子の電子配置とそれに基づく価電子の意味を理解する。また、化学結合の基礎となる貴ガスの電子配置にも留意する。	2	知識・技能	・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量の関係について理解している。	・教科書の以下の内容に取り組ませる。 ・p.38 問1 ・p.41 問2 ・p.41 学んだことを説明してみよう ・p.61 章末問題2
	2 イオン	イオンが貴ガスと同じ電子配置をとって安定化していることを理解するとともに、多原子イオンの種類や化学式を学ぶ。 また、原子のイオン化エネルギーと電子親和力を理解する。	3	知識・技能	・イオンの化学式が正しく書け、化学式でかかれたイオンの名称がわかる。 ・単原子イオンの電子配置を示すことができる。 ・イオン化エネルギーの概念を説明できる。	・教科書の以下の内容に取り組ませる。 ・p.43 問3, 4 ・p.44 問6 ・p.45 図9, 10のグラフを見て、元素の陽性・陰性との関係を答えさせる。
	3 元素の周期表	元素の性質から考え出された周期律と、それを一覧にした周期表の特徴を理解する。とくに、価電子の数の周期的変化に注目する。また、前節のイオン化エネルギーの周期的変化にも留意する。 また、周期表上での元素の分類について、典型元素と遷移元素の特徴、金属元素と非金属元素の特徴、同族元素の名称と特徴について学ぶ。	3	主体的に学習に取り組む態度	・各元素の特徴および周期表上の元素の配列について興味をもつ。	・周期表の歴史的な変遷を調べて報告させる。 ・教科書の以下の内容に取り組ませる。 ・p.50 学んだことを説明してみよう
	第3章 粒子の結合 1 イオン結合とイオンからなる物質	原子や原子団がどのようにして電気を帯びるか、またその電気を帯びた粒子がどのように力によって結合するかを学ぶ。 さらに、イオンからなる物質の種類や表し方・特徴的な性質を理解する。	3	知識・技能	・イオン結晶を構成する陽イオンと陰イオンの種類から、イオン結晶の名称と組成式を書く方法を理解している。 ・イオンからなる物質の特徴を示すことができる。	・教科書の以下の内容に取り組ませる。 ・p.54 問1 ・p.55 問2, 3 ・p.56 実験5 イオンからなる物質の性質を調べる ・p.78 実験8 化学結合と物質の性質を調べる ・p.79 章末問題1, 5

2	2 分子と共有結合	原子どうしが結合する場合、イオン結合のように粒子が電気的な力で結びつくほかに、価電子を共有する方法があることを理解する。さらに、物質を表す方法として、分子式や電子式、構造式を学ぶ。共有結合の特別な場合である配位結合について学び、錯イオンについても理解する。 電気陰性度を理解し、共有結合において原子が電子を引きつける強さの違いにより電子のかたよりが生じることがあることを理解する。無数の原子が共有結合により結合した物質である共有結合の結晶の性質と、代表的な物質について学ぶ。	6	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりにある分子からなる物質の成りたちについて興味をもつ。</li> <li>通常の共有結合とはできるしくみの異なる配位結合について興味をもつ。</li> <li>分子には極性分子と無極性分子があることに興味をもつ。</li> <li>原子がともかくつながった分子である高分子化合物に興味をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオン結晶からなる物質と分子からなる物質について、構成粒子や性質の違いを答えさせる。</li> <li>配位結合と通常の共有結合のできるしくみの違いを答えさせる。</li> <li>水への溶解性など、極性分子と無極性分子の性質の違いについて質問する。</li> <li>高分子化合物の例をあげ、身のまわりでどのように利用されているか学ぶ。</li> </ul>
	3 共有結合の結晶		1	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダイヤモンドと黒鉛の性質の違いを、共有結合の強さ、結晶構造、電子の移動をもとに説明できる。</li> <li>分子結晶との違いについて説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の以下の内容に取り組ませる。</li> <li>p.71 学んだことを説明してみよう</li> <li>p.79 章末問題6</li> </ul>
	4 金属結合と金属	金属元素の原子どうしがイオン結合や共有結合と異なるしくみで結合することを理解し、具体的に金属が身のまわりでどのように利用されているかも学ぶ。	4	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属特有の性質に興味をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属の電気や熱の通しやすさ、展性・延性、金属光沢といった性質を答えさせる。</li> <li>教科書の以下の内容に取り組ませる。</li> <li>p.79 章末問題4</li> </ul>
第2編 物質の変化						
2	1 原子量・分子量・式量	原子量の概念によって、異なる元素の原子どうしの質量が比較しやすくなることを理解する。それをもとに、分子量や式量の定義を学ぶ。	2	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子量・分子量・式量の定義を示すことができる。</li> <li>原子の相対質量をもとに、分子や分子をつくらないものの質量を考慮することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の以下の内容に取り組ませる。</li> <li>p.85 問2, 3</li> </ul>
	2 物質質量	微小な粒子を扱うとき、ある一定の量を考えて1つの単位として扱うほうが便利であることを理解し、物質質量の概念を学ぶ。 物質質量は化学全体にわたって必須の概念であるので、演習などを通して数値的な扱い方を体得する。また、気体については物質質量と体積も重要な関係があるのであわせて理解する。	5	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。</li> <li>モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質質量に関する計算ができる。</li> <li>モル体積を用いて、気体の体積と物質質量に関する計算ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の以下の内容に取り組ませる。</li> <li>p.87 問4</li> <li>p.89 問5, 例題1, 類題1</li> <li>p.110 章末問題2, 3</li> </ul>
	3 溶液の濃度	溶液の濃度について、質量パーセント濃度やモル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。 固体の溶解度の表し方と溶解度曲線について理解する。	2	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。</li> <li>目的の濃度の水溶液を調製することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1.0mol/Lの塩化ナトリウム水溶液を調製させる。</li> <li>教科書の以下の内容に取り組ませる。</li> <li>p.94 問8</li> <li>p.95 問9</li> <li>p.97 学んだことを説明してみよう</li> </ul>
	4 化学反応式と物質質量	化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことを学び、それをもとにして化学反応式が表す量的関係を把握できるようになる。 また、化学の基礎法則について、原子説の発見までの法則と分子説発見までの法則という流れから理解する。	4	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。</li> <li>化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な現象のうち、化学反応式で表せるものを調べ、報告書を提出させる。</li> </ul>
	第2章 酸と塩基の反応 1 酸・塩基	酸や塩基について、アレニウスとブレンステッドの2つの定義を学び、酸・塩基の反応には水素イオンが寄与していることを理解する。酸や塩基の価数、電離度による強弱の分類法を理解する。	2	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸・塩基の価数、電離度などの考え方があることを理解し、説明できる。</li> <li>H<sup>+</sup>の授受が実際に行われている反応を確かめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンモニアと塩化水素の反応による塩化アンモニウムの生成などを行う。</li> <li>教科書の以下の内容に取り組ませる。</li> <li>p.115 問2, 3</li> <li>p.117 問4, 学んだことを説明してみよう</li> </ul>
	2水の電離と水溶液のpH	水の一部が電離していることや、水溶液の酸性や塩基性の強さをpHで表せることを理解する。	1	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>pHの値から酸性、塩基性の強弱が判断できる。</li> <li>水素イオン濃度と水酸化物イオン濃度の関係(p.118 図7)を用いて、水酸化物イオン濃度からpHを求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の以下の内容に取り組ませる。</li> <li>p.121 学んだことを説明してみよう</li> <li>p.134 章末問題2</li> </ul>
3 中和反応と塩	酸と塩基が中和するとき塩と水が生成することを学ぶ。また、塩の定義と分類の方法、塩の水溶液の性質及び弱酸・弱塩基の遊離、揮発性の酸の遊離について理解する。	3	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>中和反応を化学反応式で表すことができる。</li> <li>酸性塩・塩基性塩・正塩などの分類について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>塩の水溶液を調製し、pH計などでpHを測定させる。</li> <li>教科書の以下の内容に取り組ませる。</li> <li>p.122 問5</li> <li>p.124 実験11 塩の水溶液の性質を調べる</li> </ul>	

	4 中和滴定	中和反応における量的関係、および酸・塩基の強弱との関係を理解する。また、滴定操作により酸や塩基の濃度を求められることを実験を通して理解し、計算方法も体得する。さらに、滴定曲線と指示薬の関係も理解する。	6	主体的に学習に取り組む態度	・身近な酸・塩基の水溶液も、中和滴定によって濃度が求められることに気づく。	・中和反応と、酸・塩基の価数や電離度がどのように関係しているかを知らうとする。
3	第3章 酸化還元反応 1 酸化と還元	酸素や水素の授受による酸化還元反応の例を学び、電子の授受による酸化・還元を定義を理解する。酸化還元反応を理解する際に酸化数の考え方が便利であることを学び、その変化から酸化還元反応の区別ができるようになる。	3	知識・技能	・電子の授受により酸化還元反応が説明できることを理解している。	・教科書の以下の内容に取り組ませる。 ・p.139 学んだことを説明してみよう ・p.160 章末問題1
	2 酸化剤と還元剤	酸化剤や還元剤のはたらきと、そのときに起こる化学変化を化学反応式で表せるようになる。それをもとに酸化還元反応の量的関係も理解する。	5	思考・判断・表現	・酸化還元反応の化学反応式を、酸化剤・還元剤のはたらきを示す反応式からつくれるようになる。 ・酸化還元反応における酸化剤と還元剤のはたらきを電子の授受に着目して説明できる。	・教科書の以下の内容に取り組ませる。 ・p.144 学んだことを説明してみよう ・p.160 章末問題3
	3 金属の酸化還元反応	金属が水溶液中でイオンになる反応が酸化還元反応の一つであること、イオンへのなりやすさ、つまり金属のイオン化傾向が金属の種類によって異なることを理解する。また、金属のイオン化傾向と金属単体の化学的性質が密接に関係していることを学ぶ。	3	思考・判断・表現	・金属のイオン化は電子を放出する酸化還元反応であることに気づく。 ・金属固有の性質をイオン化傾向で考えることができるようになる。	・教科書の以下の内容に取り組ませる。 ・p.149 学んだことを説明してみよう ・p.160 章末問題5
	4 酸化還元反応の利用	電解質水溶液と金属を利用することによって電池ができることを学び、電池には充電のできない一次電池と充電のできる二次電池があることを理解する。あわせて、金属を鉱石から得る製錬の手法についても理解する。	3	主体的に学習に取り組む態度	・身近にある電池の構造や反応のしくみに興味を示す。	・身のまわりで使用されている実用電池の種類について調べさせる。
		計	70	時数		

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 歴史総合

教科：地理歴史 科目：歴史総合 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 M1組～ S組

教科担当者：（M1組：竹内）（M2組：竹内）（E組：竹内）（A組：竹内）（S組：竹内）

使用教科書：（高等学校 歴史総合）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の過程について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 世界と日本の歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連などを多面的・多角的に考察し、社会に見られる課題の解決に向けて構想する力や、効果的に説明したり、それらを基に議論できる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 世界と日本の地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現のため、課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多角的な考察や深い理解を通して日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・近現代の歴史や地域の変化に関わる諸事象を軸に、世界と日本の相互的なつながりなどをとらえた上で、近現代の歴史を理解している。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論できる力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身につけている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
歴史の扉 【知識及び技能】 日本と世界の地域的な関わりや繋がりについて、諸資料を活用して理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 複数の資料を活用して、世界と日本との歴史的・地域的な繋がりについて、考察し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追及したり解決させる活動を行う。	第1部 歴史の扉 ①歴史と私たち ②歴史的特質と資料 第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち 近代化への問い	【知識・技能】 日本や世界の様々な地域の歴史的な遺物、文書、図像などの資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解した上で、歴史的・地域的な繋がりを理解できている。 【思考・判断・表現】 日本周辺地域及び世界の歴史との関連性について、複数の資料の関係や異同に着目し、そこから読み取った内容や特色などを考察し、表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
近現代の世界と日本 【知識及び技能】 18世紀のアジア地域における生産と流通、アジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、当時のアジアの社会経済を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 諸資料を比較分析して、18世紀のアジア地域及び世界の交易の特徴を考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を述べて、当時の特徴を主体的に追究する。	第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち 1 18世紀のアジアの繁栄 2 18世紀の東アジアの経済と社会 ・テーマ1 FOCUS	【知識・技能】 18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済を理解できている。 【思考・判断・表現】 統計データや地域の歴史の変遷を表す地図などを活用し、18世紀のアジア地域及び世界の交易の特徴を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を述べて、当時の特徴について主体的に追究できている。	○	○	○	6
定期考査			○	○	○	1
1学期 農業社会から工業社会へー産業革命 【知識及び技能】 産業革命による工業化と世界市場の形成を理解させた上で、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向についても理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 諸革命に関するデータや宣言文などの諸資料を比較分析し、当時の社会の変化の変遷について、多面的・多角的に考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】 諸革命の前後の社会状況について、その特徴を主体的に追及させる。	・第2節 農業社会から工業社会へー産業革命 3 アメリカ独立革命 4 フランス革命 5 イギリスに挑戦したナポレオン 6 大西洋をこえて広がった革命 ・モノから学ぶ歴史「編」	【知識・技能】 産業革命による工業化と世界市場の形成を理解した上で、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向についても理解できている。 【思考・判断・表現】 統計データに加え、独立宣言文や法律条文などの諸資料を比較分析し、当時の社会の変化の変遷について、多面的・多角的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸革命の前後の社会状況について、その特徴を主体的に追及できている。	○	○	○	6
イギリスの繁栄と国民国家の拡大、アジア諸国の変貌と日本の開国 【知識及び技能】 産業革命による工業化とアジアを含めた世界市場の形成を理解させるとともに、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向についても理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 地域の変遷など、地理的な視点から革命や市場形成の特徴などについて、多面的に考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料の比較や分析を通じて、当時の地理的・歴史の変遷を主体的に追及させる。	・第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大 1 イギリスの繁栄 2 後発国による「上からの近代化」 3 ロシアの近代化と南下政策 4 アメリカ合衆国の膨張 ・第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国 3 東アジアの動揺 モノから学ぶ歴史「砂糖」 ・FOCUS	【知識・技能】 欧米の市民革命や国民統合の動向、それともなうアジア政策などを軸に、日本の政治体制の変化や東アジアが変化していく過程を理解できている。 【思考・判断・表現】 地域の変遷など、地理的な視点から革命や市場形成の特徴などについて、多面的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸資料の比較や分析を通じて、当時の地理的・歴史の変遷を主体的に追及できている。	○	○	○	8
定期考査			○	○	○	1
アジア諸国の変貌と日本の開国 【知識及び技能】 18世紀後半以降のアジア情勢や日本の明治維新、大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 条文や当時の状況を示す絵画・風刺画などを活用して、立憲体制などの特徴について、多角的に考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料の比較や分析を通じて、当時の地理的・歴史の変遷を主体的に追及させる。	・第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国 4 東アジアの情勢と改革 5 明治初期日本の外交と東アジアの国際秩序 6 日本の立憲国家への道のり ・FOCUS ・テーマ3	【知識・技能】 18世紀後半以降のアジア情勢や日本の明治維新、大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解できている。 【思考・判断・表現】 条文や当時の状況を示す絵画・風刺画などを活用して、立憲体制などの特徴について、多角的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸資料の比較や分析を通じて、当時の地理的・歴史の変遷を主体的に追及できている。	○	○	○	6

2 学 期	<p>帝国主義の発展 【知識及び技能】 列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 帝国主義政策の背景や、アジア・アフリカに与えた影響などに着目し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 帝国主義の様子を示す資料や、戦争関係の資料を活用して、当時の特徴について主体的に追及させる。</p>	<p>・第5節 帝国主義の発展 1 帝国主義の時代 2 列強の世界政策 3 日清戦争と中国分割 4 日露戦争とアジア モノから学ぶ歴史－鉄道</p>	<p>【知識・技能】 列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解できている。 【思考・判断・表現】 帝国主義政策の背景や、アジア・アフリカに与えた影響などに着目し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 帝国主義の様子を示す資料や、戦争関係の資料を活用して、当時の特徴について主体的に追及できている。</p>	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	<p>帝国主義の発展 【知識及び技能】 日本の工業化とそれともなう帝国主義政策について、アジア諸国への影響と関連性を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 諸地域における帝国主義政策の影響に着目し、各国の動向を比較したり、相互の関連づけを行い、日本を含めた帝国主義政策の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料の比較や分析を通じて、当時の地理的・歴史の変遷を主体的に整理し追及させる。</p>	<p>・第5節 帝国主義の発展 5 日本の工業化と社会運動の高揚 6 日本の帝国主義と東アジア近代化と現代的な諸課題 資料で整理－帝国主義とその影響 モノから学ぶ歴史－船と移民</p>	<p>【知識・技能】 日本の工業化とそれともなう帝国主義政策について、アジア諸国への影響と関連を理解できている。 【思考・判断・表現】 アジア・アフリカ地域における帝国主義政策の影響に着目し、各国の動向を比較したり、相互の関連づけを行い、日本を含めた帝国主義政策の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸資料の比較や分析を通じて、当時の地理的・歴史の変遷を主体的に整理し追及できている。</p>	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	<p>国際秩序の変化や大衆化と私たち 【知識及び技能】 第一次世界大戦前後の展開や各国の外交体制の過程を理解させた上で、戦後の国際協調体制の変遷や各国の社会情勢の変化についても理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 第一次世界大戦の推移と戦後の国際協調体制との繋がり及び日本への影響などに着目し、当時の特徴や社会情勢の推移について多面的・多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 条約や戦争に関する諸資料を活用して、当時の社会情勢の歴史の変遷・地理的変遷を追求させる。</p>	<p>第2部 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 第一次世界大戦と大衆社会 1 第一次世界大戦 2 ロシア革命とソ連の成立 3 ヴェルサイユ＝ワシントン体制 4 東アジアの民族運動と日本 7 大正デモクラシーと日本社会の変化 資料で整理－第一次世界大戦とその影響 テーマ4－情報通信技術とマスメディアの発達</p>	<p>【知識・技能】 第一次世界大戦前後の展開や各国の外交体制の過程を理解できている。また、戦後の国際協調体制の変遷と、各国の大衆社会の形成や社会運動の拡大についても理解できている。 【思考・判断・表現】 第一次世界大戦の推移と戦後の国際協調体制との繋がり及び日本への影響などに着目し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、当時の特徴や社会情勢について多面的・多角的に考察し、表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 条約や戦争に関する諸資料を活用して、当時の社会情勢の歴史の変遷・地理的変遷を追求できている。</p>	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	<p>経済危機と第二次世界大戦 【知識及び技能】 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制のゆらぎを理解できている。また、第二次世界大戦前後の国際秩序の変遷についても理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 世界恐慌、ファシズム、第二次世界大戦の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付け、多面的・多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 戦争や当時の中心的な人物に関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組ませる。</p>	<p>第2節 経済危機と第二次世界大戦 1 世界恐慌 2 ファシズム・軍部の台頭 3 ファシズムの対外侵略と国際秩序の変化 4 日中戦争の開始と戦時体制下の日本 5 第二次世界大戦の開始 6 第二次世界大戦の終結 資料で整理－国際協調体制の動向</p>	<p>【知識・技能】 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制のゆらぎを理解できている。また、第二次世界大戦前後の国際秩序の変遷についても理解できている。 【思考・判断・表現】 世界恐慌、ファシズム、第二次世界大戦の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付け、多面的・多角的に考察し、表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 戦争や当時の中心的な人物に関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組むことができている。</p>	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	<p>第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成 【知識及び技能】 第二次世界大戦後の国際連合と国際経済体制の動き、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 第二次世界大戦後の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 第二次世界大戦後の国際社会の動向及びその後の社会情勢の変化についての課題を追究したり、解決したりする活動に主体的に取り組ませる。</p>	<p>・第3節 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成 1 国際連合と国際経済体制 2 冷戦の開始とアジアへの波及 3 敗戦国の戦後改革と日本国憲法の制定 4 平和条約と日本の独立回復 資料で整理－第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題</p>	<p>【知識・技能】 第二次世界大戦後の国際連合と国際経済体制の動き、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解できている。 【思考・判断・表現】 第二次世界大戦後の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 第二次世界大戦後の国際社会の動向及びその後の社会情勢の変化についての課題を追究したり、解決したりする活動に主体的に取り組むことができる。</p>	○	○	○	4
	定期考査			○	○	○	70
合計							

高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 保健体育 科目 体育

教科: 保健体育 科目: 体育 単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 M1 組~ S 組

教科担当者: (M1組:伊坂・永沢) (M2組:伊坂・永沢) (E組:伊坂・三浦) (A組:加藤・伊坂) (S組:加藤・伊坂)

使用教科書: (現代高等保健体育:大修館書店)

教科 保健体育 の目標: 将来にわたって健康な生活を送る為の体力と精神力を向上させ、生涯スポーツへの基盤を身に付ける。

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

科目 体育 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動種目の固有の技能や動きを身に付けさせる。運動種目の領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができるようになる。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	自主的に取り組もうとする。勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。互いに助け合い、自己の責任を果たそうとする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	運動種目の固有の技能や動きを身に付けさせる。運動種目の領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができるようになる。自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えることができるようになる。自主的に取り組もうとする。勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。互いに助け合い、自己の責任を果たそうとする。	・体づくり運動 ・剣道 剣道の歴史と構えの説明 剣道の考え方と心の在り方 今の剣道の構えと基本動作 ・ハンドボール パス、ドリブル、シュート ディフェンス、サイド攻撃、ゲーム	運動種目の固有の技能や動きを身に付けることができたか。運動種目の領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができたか。自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えることができたか。 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしたか。 互いに助け合い、自己の責任を果たそうとしたか。	○	○	○	8
			運動種目の固有の技能や動きを身に付けることができたか。運動種目の領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができたか。自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えることができたか。 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしたか。 互いに助け合い、自己の責任を果たそうとしたか。	○	○	○	10
	運動種目の固有の技能や動きを身に付けさせる。運動種目の領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができるようになる。自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えることができるようになる。自主的に取り組もうとする。勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。互いに助け合い、自己の責任を果たそうとする。	・体づくり運動 腕立て伏せ、腹筋、背筋、スクワット等の筋力とレーニングを継続的に 行う。 ・水泳 クロール、平泳ぎ	運動種目の固有の技能や動きを身に付けることができたか。運動種目の領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができたか。自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えることができたか。 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしたか。 互いに助け合い、自己の責任を果たそうとしたか。	○	○	○	2
2 学 期	運動種目の固有の技能や動きを身に付けさせる。運動種目の領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができるようになる。自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えることができるようになる。自主的に取り組もうとする。勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。互いに助け合い、自己の責任を果たそうとする。	・体づくり運動 腕立て伏せ、腹筋、背筋、スクワット等の筋力とレーニングを継続的に 行う。 ・水泳 クロール、平泳ぎ	運動種目の固有の技能や動きを身に付けることができたか。運動種目の領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができたか。自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えることができたか。 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしたか。 互いに助け合い、自己の責任を果たそうとしたか。	○	○	○	6
			・剣道 防具のつかけの切り替えし、面・こ て・胴・突き の打突 自稽古、試合、審判法 ・サッカー ボールタッチ、リフティング、パ ス、ドリブル、ヘディング、シュ ート 1対1の攻防、オフense、ディフェ ンス ゲーム	運動種目の固有の技能や動きを身に付けることができたか。運動種目の領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができたか。自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えることができたか。 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしたか。 互いに助け合い、自己の責任を果たそうとしたか。	○	○	○
3 学 期	運動種目の固有の技能や動きを身に付けさせる。運動種目の領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができるようになる。自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えることができるようになる。自主的に取り組もうとする。勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。互いに助け合い、自己の責任を果たそうとする。	・体づくり運動 腕立て伏せ、腹筋、背筋、スクワット等の筋力とレーニングを継続的に 行う。 ・持久走(12分間走) 球技(サッカー、バスケットボ ール、バレーボール等)	運動種目の固有の技能や動きを身に付けることができたか。運動種目の領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができたか。自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えることができたか。 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしたか。 互いに助け合い、自己の責任を果たそうとしたか。	○	○	○	10
			運動種目の固有の技能や動きを身に付けることができたか。運動種目の領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができたか。自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えることができたか。 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしたか。 互いに助け合い、自己の責任を果たそうとしたか。	○	○	○	10



高等学校 令和5年度（2学年用）教科 家庭 科目

教科：家庭 科目：家庭基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 M1組～ S組

教科担当者：（M1組：前島・境野）（M2組：前島・境野）（E組：前島・境野）（A組：前島・境野）（S組：前島・境野）

使用教科書：（「高等学校 家庭基礎 持続可能な未来を創つくる」第一学習社）

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けられるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けられるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けられるようにする。

科目 0 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>これからの生き方と家族</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人生にはライフステージごとに課題があることを理解し、その課題に取り組むための知識を身につける。</li> <li>家族、家庭、世帯はどう異なるのかについての知識を持つ。</li> <li>自分や家族のために法令があることについて理解できる。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去から現在までの自分を見つめ直し、自分の生き方についての課題を解決するために思考・判断できるようにする。</li> <li>自分にとって「家族とは何か」というテーマにもとづいて課題を見出し、解決策を考えることができるようになる。</li> <li>「家族に関する法律」の概要を、実生活の場面にあてはめて考えることができるようになる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の属する青年期は、長い生涯の一時期であることを認識し、「生きがい」をめざして意欲的に取り組もうとする姿勢が見られるようになる。</li> <li>家族形態が多様化する中で、課題を明確にしつつ、家族・家庭の重要性について考えようとする姿勢が見られるようになる。</li> <li>「家族に関する法律」の概要を、実生活の場面にあてはめて考えることができるようになる。</li> <li>日常生活と法律とのかかわりについて関心を持ち、生活の充実・向上に結びつける努力をしようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯発達する自分</li> <li>青年期を生きる</li> <li>キャリアの形成</li> <li>ワーク・ライフ・バランスを求め</li> </ul> <p>て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家族・家庭・世帯</li> <li>家族・家庭の働き</li> <li>家族に関する法律</li> </ul>	<p>A これからの生き方と家族</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人生にはライフステージごとに課題があることを理解し、その課題に取り組むための知識を身につけている。</li> <li>家族、家庭、世帯はどう異なるのかについての知識を持っている。</li> <li>自分や家族のために法令があることについて理解できている。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去から現在までの自分を見つめ直し、自分の生き方についての課題を解決するために思考・判断できる。</li> <li>自分にとって「家族とは何か」というテーマにもとづいて課題を見出し、解決策を考えることができる。</li> <li>「家族に関する法律」の概要を、実生活の場面にあてはめて考えることができる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の属する青年期は、長い生涯の一時期であることを認識し、「生きがい」をめざして意欲的に取り組もうとしている姿勢が見られる。</li> <li>家族形態が多様化する中で、課題を明確にしつつ、家族・家庭の重要性について考えようとしている姿勢が見られる。</li> <li>「家族に関する法律」の概要を、実生活の場面にあてはめて考えることができる。</li> <li>日常生活と法律とのかかわりについて関心を持ち、生活の充実・向上に結びつける努力をしている。</li> </ul>	○	○	○	12
<p>1 学期</p> <p>B 衣生活をつくる</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>繊維→糸→織物・編物という加工過程、および繊維の種類と特徴について理解する。</li> <li>被服材料の性能に関する基本的な知識を身につける。</li> <li>界面活性剤の働き、汚れの落ちるしくみが理解できている。</li> <li>ミシン、アイロンの技能を身につける。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな場面にふさわしい素材や布の種類を考えることができる。</li> <li>被服の洗濯に際して、洗剤や使用水量などを理解し、よりよい衣生活を創造していくことができるようになる。</li> <li>これまでの洗濯を振り返り、よりよい洗剤の洗濯、使用方法の改善ができるようになる。</li> <li>端ミシンを理解できるようになる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被服材料に着目し、何を材料にするかによって、また、「織り方」「編み方」によって外観や性能が異なってくることに興味を持つ。</li> <li>被服の表示から洗濯方法を考えることができ、これからの購入や管理に活かそうという意欲を高める。</li> <li>被服製作を実生活に活かそうという意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被服の素材</li> <li>洗濯方法と表示</li> <li>洗濯のしくみ</li> <li>被服実習（エプロン・三角巾）</li> </ul>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>繊維→糸→織物・編物という加工過程、および繊維の種類と特徴について理解している。</li> <li>被服材料の性能に関する基本的な知識を身につけている。</li> <li>界面活性剤の働き、汚れの落ちるしくみが理解できている。</li> <li>ミシン、アイロンの技能を身につける。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな場面にふさわしい素材や布の種類を考えることができる。</li> <li>被服の洗濯に際して、洗剤や使用水量などを理解し、よりよい衣生活を創造していくことができる。</li> <li>これまでの洗濯を振り返り、よりよい洗剤の洗濯、使用方法の改善ができる。</li> <li>端ミシンを理解できる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被服材料に着目し、何を材料にするかによって、また、「織り方」「編み方」によって外観や性能が異なってくることに興味を持っている。</li> <li>被服の表示から洗濯方法を考えることができ、これからの購入や管理に活かそうという意欲が高まっている。</li> <li>被服製作を実生活に活かそうという意欲が高まっている。</li> </ul>	○	○	○	9
<p>次世代をはぐくむ</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児期での、認知・情緒・言語面、運動機能面のいちじるしい発達を踏まえ、それぞれの発達過程を理解する。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の子どものころの様子を調べること、自分1人で育ててきたのではないことを理解する。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの体の発育・発達に関心を持ち、成長過程に見られる特徴を把握することに意欲を高める。</li> </ul> <p>定期考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児の心と体の発達</li> <li>親と子のかかわり</li> </ul>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児期での、認知・情緒・言語面、運動機能面のいちじるしい発達を踏まえ、それぞれの発達過程を理解している。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の子どものころの様子を調べること、自分1人で育ててきたのではないことを理解できる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの体の発育・発達に関心を持ち、成長過程に見られる特徴を把握することに意欲が見られる。</li> </ul>	○	○	○	4
			○	○		1

2 学 期	<p>衣生活をつくる</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシン、アイロンの技能を身につける。</li> <li>・【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>・端ミシンを理解できるようになる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被服製作を実生活に活かそうという意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服実習（エブロン・三角巾）</li> </ul>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシン、アイロンの技能を身につける。</li> <li>・【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>・端ミシンを理解できる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被服製作を実生活に活かそうという意欲が高まっている。</li> </ul>	○	○	○	9
	<p>食生活をつくる</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品を摂取し、それを利用するための消化・吸収の過程を理解する。</li> <li>・五大栄養素を理解し、食品を適切に組み合わせる方法を身につけている。</li> <li>・食品の選択・計量・器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。</li> <li>・【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>・五大栄養素の働きに関する基本を身につけており、実生活の場面で個々の食品にあてはめて考えることができるようになる。</li> <li>・火加減や水加減、調理器具の選択、食材の購入や後片付けなど、調理の流れの中で「エコ視点」を検討し、実践することができるようになる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養素について関心を持ち、その種類や働きを理解したうえで、食生活に応用しようとする意欲を高める。</li> <li>・食品の栄養的特性や加工・調理について関心を持ち、意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に配慮した食生活</li> <li>・人体と栄養</li> <li>・五大栄養素</li> <li>・食品の安全と衛生</li> <li>・調理実習</li> </ul>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品を摂取し、それを利用するための消化・吸収の過程を理解している。</li> <li>・五大栄養素を理解し、食品を適切に組み合わせる方法を身につけている。</li> <li>・計量器の使い方、包丁の扱い方、野菜の切り方、調理器具の使い方など基本操作をこなすことができる。</li> <li>・【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>・五大栄養素の働きに関する基本を身につけており、実生活の場面で個々の食品にあてはめて考えることができる。</li> <li>・火加減や水加減、調理器具の選択、食材の購入や後片付けなど、調理の流れの中で「エコ視点」を検討し、実践することができる。</li> <li>・【学びに向かう力、人間性等】</li> <li>・栄養素について関心を持ち、その種類や働きを理解したうえで、食生活に応用しようとする意欲が見られる。</li> <li>・食品の栄養的特性や加工・調理について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	○	○	○	10
	<p>高齢者とかかわる</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が急速に進むと、家庭生活においても、社会生活においてもさまざまな課題が生じることを理解でき、その課題解決のための基本的な考え方を身につける。</li> <li>・高齢者への社会的支援システムとしての介護保険などのしくみについて理解する。</li> <li>・【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>・高齢化が進んでいる実態を把握し、その原因と課題を探るとともに、やがて訪れる高齢社会のあるべき姿を思考・判断できるようになる。</li> <li>・高齢者の場合、加齢にともなう心身の変化や自立について個人差が見られることを前提に思考・判断することができるようになる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の生活に関心を持ち、その充実・向上のために課題を解決しようとする意欲を高める。</li> <li>・介護保険制度のしくみに関心を持ち、社会全体で支えていこうとする意欲が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢社会を生きる</li> <li>・高齢社会を支える</li> </ul>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が急速に進むと、家庭生活においても、社会生活においてもさまざまな課題が生じることを理解でき、その課題解決のための基本的な考え方が身につけている。</li> <li>・高齢者への社会的支援システムとしての介護保険などのしくみについて理解している。</li> <li>・【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>・高齢化が進んでいる実態を把握し、その原因と課題を探るとともに、やがて訪れる高齢社会のあるべき姿を思考・判断できる。</li> <li>・高齢者の場合、加齢にともなう心身の変化や自立について個人差が見られることを前提に思考・判断することができる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の生活に関心を持ち、その充実・向上のために課題を解決しようとする意欲が見られる。</li> <li>・介護保険制度のしくみに関心を持ち、社会全体で支えていこうとする意欲が見られる。</li> </ul>	○	○	○	4
	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢・病気・失業・障害など、生活上の変化により、みずからの努力だけでは自立した生活を維持できなくなることがあることを理解できるようになる。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーマライゼーション、バリアフリー、さらにユニバーサルデザインの意味を理解し、その知識を実社会にあてはめて考えられるようになる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの社会の担い手として、社会保障制度の充実向上をめざしていく意欲を高める。</li> <li>・福祉に関心を持ち、その充実向上をめざしてボランティア活動などへの参加意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度と社会的連帯</li> <li>・人の多様性と社会参加</li> </ul>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢・病気・失業・障害など、生活上の変化により、みずからの努力だけでは自立した生活を維持できなくなることがあることを理解できている。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーマライゼーション、バリアフリー、さらにユニバーサルデザインの意味を理解し、その知識を実社会にあてはめて考えられる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの社会の担い手として、社会保障制度の充実向上をめざしていく意欲が見られる。</li> <li>・福祉に関心を持ち、その充実向上をめざしてボランティア活動などへの参加意欲が見られる。</li> </ul>	○	○	○	4
	定期考査				○	○	



